

T O K Y O ク リ ー ン ア ッ プ 推 進 協 議 会
議 事 録

令和 8 年 7 月 3 0 日

東京都環境局資源循環推進部

(開会)

【宗野資源循環推進部長】 お揃いになりましたので、これよりT O K Y Oクリーンアップ推進協議会を開催いたします。本日はご多忙の中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日の進行役、東京都環境局資源循環推進部長の宗野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。まず、会議資料を確認させていただきます。議事次第、資料①「出席者名簿」、資料②「事務局説明資料」、資料③「出席者取組発表資料」、こちらについてはデータを画面投影いたします。

本日は現地・オンライン合わせまして総勢63団体の皆様にご出席をいただいております。議事の関係上、ご出席者の紹介は資料①の出席者名簿をもって代えさせていただきます。それでは議事に先立ち小池知事よりご挨拶申し上げます。

【小池東京都知事】 みなさまこんにちは。毎日うだるような暑さが続いておりますが、今日その中にご参加いただきまして誠にありがとうございます。観光は我が国としても明確に重要な産業であり、インバウンドは過去最高を記録しております。東京を訪れる訪都外国人旅行者数は3年連続で過去最多を更新し、2,865万人という数字が出ています。そして、観光客の増加は大変な賑わいをもたらすということで、大変ありがたいものではありますけども、一方で旅行者の集中する地域においては、繁華街などでごみのポイ捨てといった課題も出てきております。

東京都では清潔で魅力ある東京を維持していくために、区市町村、そして宿泊・交通、飲料などの団体の皆様と連携しまして、オール東京で街をきれいにする「T O K Y Oクリーンアップアクション」を展開いたしております。

この取組をわかりやすく発信するために、ロゴと啓発アイテム。私は大体歩いたところには必ずフットプリントとして風呂敷か、もしくはエコバッグが残るんですけども、今回は風呂敷で行きたいと思っています。

これが今回のクリーンアップアクションの一つのツールでございまして、一人ひとりのアクションがきれいな東京をつくることにつながっているというメッセージを込めまして「KEEP TOKYO CLEAN」というロゴを作成いたしました。

また、日本の美德であり、染め物や柄も非常に伝統的なものである風呂敷を世界に文化として広めていくという、そういう方法を取っていきたいと思っています。

これからも色々なイベントがございますので、その場で配布をさせていただいたり、旅行者の皆様には様々な場面で繰り返し使ってエコなアクションを進めていただくように、また、使い方も広く伝わるようにしていきたいと思っています。

今日はお集まりいただいている樋口区長、師岡町長はじめ皆様方、それぞれのフィールドによって対応の仕方は違うと思いますが、色々なご意見を賜りながら、よりクリーンな東京、そしてまたそれが東京、日本全体の魅力につながるようにしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【宗野資源循環推進部長】 知事ありがとうございました。では、はじめに事務局資料の説明をいたします。

画面に投影しました資料②をご覧ください。3ページ目をご覧ください。訪都旅行者の状況と東京の評価でございます。東京はインバウンドから高い評価を得ており、衛生面も魅力の一つとなっております。昨年の訪都外国人旅行者は2,865万

人となり、3年連続で過去最多を更新しているところでございます。

次のページは東京におけるごみのポイ捨てを巡る状況でございます。観光に対する意識調査によりますと、都民は観光客の増加により経済的な効果を認識している一方で、ごみや混雑等への影響も感じております。また、観光地や繁華街の一部では、ごみのポイ捨てにより美観に影響を及ぼす事例も発生をしているところでございます。

次のページは東京都の新たな施策展開でございます。清潔で魅力ある都市環境の確保に向け、東京都はごみの持ち帰りマナー等の発信や、地域美化推進の取り組みを強化しているところでございます。区市町村や事業者等と連携した環境美化の推進体制を構築し、T O K Y O クリーンアップアクションを展開してまいります。ごみの持ち帰りの理解促進を基本として、環境と観光の連携により、美化行動を推進するムーブメントの情勢をはじめ、清潔な環境の整備や持続可能な観光を推進してまいります。

次のページをご覧ください。東京の環境美化を進めるため、T O K Y O クリーンアップ推進協議会を設置し、公共・事業者・団体等の皆様との連携の下、さまざまなアクションを展開してまいります。この取組趣旨に賛同し、地域、事業特性を踏まえ、環境美化やポイ捨て防止に資する取組を推進していただける方をパートナーとして位置づけています。本日時点でのパートナーは資料のとおりです。随時募集し、パートナーを広げてまいります。

次のページはパートナーの皆様の取組事例でございます。区部では多くの人が来訪する繁華街を抱えておりまして、ポイ捨て対応等に苦慮しているエリアを中心として、地域の事情に応じた多様な対策を強化する動きが加速しています。

次のページは多摩・島しょの取組事例でございます。自然地を抱えるエリアや住宅地を中心に、地域特性を踏まえた自然環境保全の取組や地域団体等と連携した美化対策が推進されているところでございます。

次のページは事業者・団体の皆様の取組事例でございます。交通、宿泊、飲料、NPO等、幅広い業界、関係主体の皆様による、清潔で魅力ある東京の実現に資する多様な取組が推進されております。

次のページは、今後の広報展開でございます。本日を皮切りといたしまして、皆様と連携し、都内各地で広報を展開してまいります。先ほど知事からご紹介いたしましたロゴも活用しまして、年間を通じたPRに加え、夏・冬に重点期間を設け、イベントや持ち帰りキャンペーンを実施してまいります。

最後のページは重点広報でございます。8月下旬～10月頃にかけて、区部・多摩各エリアで様々なイベントを開催してまいります。8月22日にはオープニングイベントを開催し、以降各地でイベントを開催してまいります。

都内の協力宿泊施設やイベントで、日本独自のエコバッグである風呂敷を配布いたします。様々な場面で繰り返し使っていただき、みんなで一緒にエコなアクションを推進するアイテムにしていきたいと存じます。広報の詳細は順次公表してまいります。事務局からの説明は以上でございます。

続きまして、本日都庁舎に出席いただいている千代田区様、奥多摩町様、東日本旅客鉄道様、全国清涼飲料連合会様、東急ホテルズ&リゾーツ様から順に取組の発表をいただきたいと存じます。それでははじめに樋口区長様、よろしくお願いいたします。

【樋口千代田区長】 ありがとうございます。千代田区長の樋口でございます。

本日は、貴重なお時間を頂戴しまして、千代田区が掲げる「世界一安全安心なまち」の下で進める「秋葉原におけるスマートごみ箱」についてご説明いたします。

秋葉原には学校や幼稚園もありますから、何よりも日々の生活環境を守らなければと考えているのですが、近年、インバウンドをはじめ多くの来街者の方々が訪れ、ごみのポイ捨てが深刻化しています。こうしたごみの放置で、ネズミ、カラスによる食い散らかしなど、生活環境が悪化し、SNSでも秋葉原のごみ問題はたびたび炎上しています。

私自身、4年前から清掃職員と一緒に、酷暑など厳しい労働環境の下で、パッカー車や軽ダンプに乗り、ごみ収集作業を体験してまいりました。「ごみのごみを呼ぶ」クセも分かり、現場を知る清掃職員とも直接意見を交わしながら、現場主義で対応を重ねているといったところでございます。

ポイ捨てごみの多くは、植栽や路地裏、自販機横などへ捨てられます。こちらは、一年で一番酷くなる正月三が日の状況です。事業系ごみ袋が数日置かれたままだと、そこがごみを捨てて良い場所のように見えて、さらにポイ捨てごみを呼び込んでしまう。「ごみ袋がごみを呼ぶ」のです。

これまで、町会・商店街など地域の皆さんを中心に清掃が行われていましたが、限界を迎えています。行政としても大きく構えることとし、新たに、清掃事務所・保健所・道路公園課など所管を超えた対策を進めています。年末年始、ゴールデンウィークなどに、事業系ごみ袋が長時間放置されないよう、繰り返し指導し改善の効果が見えています。また、秋葉原駅周辺などの要所は、行政直営で、毎朝早朝に清掃職員がポイ捨てごみを回収しています。さらに、日曜の歩行者天国では、SNS上の民間ボランティアの皆様による清掃活動も行われています。

民間の清掃活動でユニークなのは、移動式ごみ箱。私も何度か参加しましたが、外国人の皆さんと挨拶を交わし、時には感謝されながら、ごみを回収しています。このように皆さんと連携し、対策を重ねてきました。来街者の増加・多様化に対して、さらなる一手が必要だといま考えています。移動式ごみ箱での経験から、「捨てる場所があれば捨てにやって来る」ことも分かりました。洋の東西を問わず、誰しも、悪意をもってポイ捨てをしたいという人は意外に少ないと実感しています。

実際に訪日外国人旅行者の困りごとアンケート1位は、「ごみ箱の少なさ」なんです。そもそも、ごみを捨てる場所が少ないことが課題ではないかと考えておりまして、問題は「来街者に対して、ごみはすべて持ち歩け、持ち帰れ」では、やはり無理があり、いくら厳しく取り締まってもポイ捨てはなくなりません。来街者の方が少なくとも秋葉原で買った、食べた、飲んだごみは、秋葉原で受け止めるべきではないかと考えています。そこで千代田区は、従来の「持ち帰り原則」に固執するのではなく、秋葉原においては「実情に即した」「現実的で実効性のある施策」として、公共ごみ箱の設置へ舵を切りました。本年10月末をめどに、秋葉原の中央通りを中心に10か所22台のスマートごみ箱を、自治体主導で全国初めて設置します。これは1995年、地下鉄サリン事件以降、街中から撤去されてきたごみ箱を30年ぶりに大きく転換する取組です。

ただし、行政のごみ箱だけで解決できるわけではありません。本日もおられますが、

各ステークホルダーのみなさん、行政、地域、事業者、来街者の間で、責任とコストの分担についての幅広い合意形成が必要だろうと、エコシステムを構築していきたいと考えています。今後は、行政もぜひとも協力させていただきながら、秋葉原で商売をされる、例えば家電量販店、フィギュアやトレカ、おもちゃの小売店、飲食のテイクアウト店、コンビニ、あるいは飲料の自動販売機でも、ごみ箱をご用意いただき、周辺清掃も手伝っていただくなど、幅広く連携させていただき、デジタルやAIなど活用して、その大きな枠組みの中で社会問題の解決を図りたいと考えています。スマートごみ箱設置に千代田区はまず挑戦し、新たな一步を踏み込みました。ぜひとも本日お集まりの皆様とともに、東京都が進める「T O K Y Oクリーンアップアクション」に賛同される皆様と、互いに一步踏み込み、役割を補完し合い、「連帯」と「協働」を具体的な行動として示していきたいと思います。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【宗野資源循環推進部長】 樋口区長、ありがとうございました。続きまして、奥多摩町様、よろしくお願いいたします。

【師岡奥多摩町長】 奥多摩町長の師岡でございます。本日はT O K Y Oクリーンアップ推進協議会のスタートにあたりまして、奥多摩町の取組を紹介する機会をいただきました。誠にありがとうございます。またこの協議会は小池都知事が会長を務められまして、東京都が主体となって都内自治体をはじめ関係事業者と連携のもと、様々なクリーンアップアクションを展開されることから、奥多摩町としても全面的に協力させていただき、連携を図っていく所存でございます。

奥多摩町は全域が秩父多摩甲斐国立公園に包含され、首都東京の奥座敷として、豊かな自然を求め、年間約160万人の方に来町いただいています。その中で、特にコロナ禍以降、JR青梅線の駅から近い溪谷沿いの河原におきまして、特に夏休みの時期にバーベキュー客が多くなり、一部のマナーを守らない迷惑行為によりまして、ごみの放置などの対応に苦慮しているところでございます。

その中で奥多摩町まちづくり委員会、民間の方々を中心に組織された委員会でございますが、国立公園の豊かな自然を守ろうということで、本日の資料の表紙にその活動のポスターを抜粋しておりますが、“National Park Keep Blue plus Green”をキャッチフレーズに、国、環境省の奥多摩自然保護管理事務所、東京都環境局の奥多摩ビジターセンター、町、観光協会をはじめ、民間事業者も連携した、マナーアップ強化のキャンペーンを立ち上げまして、今年で6年目を迎えました。具体的な取組は後程担当課長から説明をさせていただきます。

一方、昨年来当町におきましてもツキノワグマの出没が続き、昨年8月、本年5月と人的被害も発生しておりますが、いずれもクマ鈴の携行など、クマに出会わないための対策が不十分な中、残念ながら発生した状況であります。一部報道を受け、町内観光業への風評被害の状況を踏まえ、今月14日には5月に続き私のメッセージを発出したところであります。

観光ごみ対策はバーベキューごみの放置によるクマなどの動物の誘引を防ぐ獣害対策でもあります。この獣害対策も観光ごみ対策と同様に町、行政だけでなく、町内観光事業者と連携して、クマ、シカ、サルなどの動物が出没しないよう、ごみの管理の徹底、

状況に応じ追い払いの花火の打ち上げなど、対策を講じております。明後日から8月、町の観光にとって年間を通じて一番多くの観光客の皆様にご来町いただく時期となります。観光ごみ対策を拡充し、町民の皆様の日常生活を守ることはもちろんのこと、多くの観光客の皆様が安全、安心に奥多摩の観光をお楽しみいただけるよう、町といたしまして、東京都とさらに連携を密にさせていただき、多摩川の上流からこのT O K Y Oクリーンアップアクションを推進してまいり所存でございます。今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

【大串奥多摩町産業観光課長】 続きまして奥多摩町産業観光課長大串でございます。私から奥多摩町における具体的な取組の概要をご説明いたします。23ページご覧いただいておりますが、奥多摩町における観光ごみ対策①でございます。コロナ禍以降、氷川溪谷の河原がJ R 青梅線奥多摩駅下車徒歩圏内ということでバーベキュー可能な場所として、S N Sを通じて外国籍の方を中心に集まる状況でございます。そういった状況を踏まえ令和3年度からマナーアップキャンペーンを官民共同のもと実施しています。下の表、令和7年度の数値でございますが、直火、回収ごみ、河原における放置されたごみともに減少傾向ではございます。

次のページをご覧ください。ごみの放置等の減少傾向には8月のお盆休みにおける奥多摩駅前でのごみ、観光ごみ袋販売回収や、ドローンを活用した河川監視、マナー周知啓発による効果が一定程度あると言えます。

次のページをご覧ください。こちらは参考資料として町のホームページの掲示内容であったり、河原での啓発活動での配布するチラシでございますが、奥多摩町全域が国立公園であることを強調するとともに、観光地であるものの、町民の皆様の日常生活がございましたので、日本語だけでなく英語でも周知を図り、河原で配布するチラシではさらに英語のほか来訪傾向を踏まえ、東南アジア系の言語等も記載し、多言語でマナーを周知しているところでございます。

次に26ページでございますが、今夏の拡充内容としまして、現状と課題を踏まえ、今回の東京都の新たな補助を活用させていただき、スマートごみ箱を設置いたしまして実証実験をするるとともに、多摩川鳩ノ巣溪谷において官民連携で展開するほか、多言語によるマナー啓発動画を作成し、一方でごみ放置の抑止効果を期待しまして防犯カメラの設置を実施するところでございます。今後事業を展開することで効果的な対策につなげていきたいと考えております。以上で奥多摩町における取組の発表を終わります。ありがとうございました。

【宗野資源循環推進部長】 奥多摩町様ありがとうございました。続きまして東日本旅客鉄道常務取締役白山様、お願いいたします。

【東日本旅客鉄道株式会社 白山 様】 ご紹介いただきましたJ R 東日本の白山でございます。私からは駅のきれいを支えています清掃スタッフの作業環境にフォーカスした取組をご紹介したいと思います。まず現状でございますが、様々な清掃関連の業界のみなさま共通かと思いますが、清掃を担うスタッフの不足、高齢化というのが喫緊の課題でございます。機械化、軽量化の取組を進めているところでございまして、床清掃ロボットの活用、取り換えの周期を延ばすためのトイレトペーパーの長尺化、こういったものにも取り組んでいます。さらには圧縮ごみ箱を試験運用しながら、様々な方法

で機械化、軽量化に取り組んでいるところでございます。

いま申し上げた圧縮ごみ箱についてももう少し詳しくご紹介したいと思います。この特徴でございますけれども、内部にセンサーがあって、ごみが溜まってきますと圧縮を自動的に行うところがポイントでございます。さらに集積状況をシステムで把握をしまして、回収のちょうどよいタイミングをアラートで教えてくれるというところも特徴でございます。現在我々では長野県の松本駅、栃木県の小山駅に設置をしております。こちらを導入したところ、ごみ箱自体の圧縮によりたくさん入れられるようになり回収の頻度が半減以下になったということです。またごみを捨てるタイミングもよいタイミングを知らせてくれることで、定期的な巡回、不要な回収のタイミングを減らすという効果が出てきています。ただ一方で、当然かさは押しつぶされ、たくさん入れられるようになったのですが、重さが増すという別の課題も出てきています。そうした新たな課題にも対策をとりながら、今後効果を見極めていきたいと思っています。

続いてもう一つの取組としまして、資源循環に関する取組のご紹介をしたいと思います。当社は駅から出ます廃棄物の分別と資源化を目的に、首都圏の駅を中心にリサイクルステーションの設置の拡大を行っております。従来は写真の左肩にあるような三連の分別ごみ箱を入れておりましたが、現在五連でさらに視認性の高いごみ箱を採用し、分別率の向上に努めているところでございます。ごみの一部については資源化を行って、再資源化、再利用を行うことで、サーキュラーエコノミーの実現に努めています。廃プラスチックの回収率が上がった、ごみの分別作業の軽減が図られたといった声も出てきております。最終的に当面の課題としては今のような様々なものがございますけれども、この資源循環の取組を含めて、色々な観点を含めて、ごみに寄り添い、きれいな駅で楽しい旅のお出迎え、お見送りをしていきたいと思っています。本日は貴重な時間をいただきありがとうございます。

【宗野資源循環推進部長】 白山様ありがとうございます。続きまして全国清涼飲料連合会専務理事森本様お願いいたします。

【一般社団法人全国清涼飲料連合会 森本 様】 全国清涼飲料連合会専務理事の森本です。本日はありがとうございます。私からは全国清涼飲料連合会の活動、取組と、特にリサイクルボックスの話をさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

全国清涼飲料連合会ですが、略称全清飲、清涼飲料の業界団体ということで、清涼飲料水の製造企業の会員、関連する業界の賛助会員で構成されています。数多くの会員に参加いただいております。我々は業界一体となって持続的な成長を目指すということで、「業界の共益」はもちろん、「社会の公益」のために様々な取組をしております。

清涼飲料、ご存じの通り非常に生産量が多いです。23,110千kl、5兆円規模と非常に規模が大きい中で、ペットボトル、缶、瓶となりますが、8割がペットボトルを占めている現状でございます。ペットボトルはそもそもごみではなく資源ということで、実はいまペットボトルの現状、リサイクル率は85%ということで、何かしらにリサイクルされているのが85%となっており、これは世界トップクラス、熱利用も含めると98.6%。回収率も家庭では分別をして出していただいているので91.9%。ペットボトルからペットボトルに生まれ変わるボトルtoボトル、水平リサイクルは37.7%で約4割となっています。業界でも2030年にボトルtoボトルの比率を50%にしていこうということで活動を

展開しています。

我々の取組、もうかなり前から取組を進めさせていただいております。この赤枠で囲っている2020年8月、ちょうどコロナ禍だったのですが小池都知事にも参加いただき開催しております。この時画面に映っているのは実は私でして、そのころは飲料メーカーの立場として、そのころから水平リサイクルの取組として東京都さんと一緒に取り組んできています。2030年には50%に上げるというところで、さまざまな取組、実証実験に取り組んでいます。

我々はボトルtoボトル50%の達成に向けて、我々だけでなく様々なステークホルダーの皆様と取り組ませていただいております。消費者のみならずもちろん、企業、メディア、行政もそうです。東京都様をはじめとした自治体の皆様ともしっかり連携させていただいて、資源循環に取り組んでいます。右側の図はペットボトルの水平リサイクルのスキームです。オレンジの部分、我々飲料メーカーが販売して、消費者の方が消費する動脈の部分だけでなく、収集・運搬、中間処理、再資源化を通じてペットボトルに再生していく静脈の部分との連携をしっかりとやっていこうと、それぞれの活動を展開しています。

ボトルtoボトルの取組をもっと広げようということで、ポスターを作ったり動画を作ったり、教材を作ったり、活用して取組の輪を広げています。真ん中のボトルtoボトルのキャラクター、実はモデルは私なんですけれども、こんなキャラクターも作って取組を進めています。

今日もう一つお伝えしたいことは自販機の横のリサイクルボックスについてです。このリサイクルボックスはごみ箱ではなく、リサイクルボックスですので、まさに資源循環の入り口となっていてペットボトル、缶、瓶以外は入れてはだめという風になっているのですが、写真にあるようにごみであふれている、多すぎて撤去せざるを得ないとか、カップが入り口をふさいで入らない、周りにごみがどんどん置かれて散乱していくという悪循環になっている状況で、我々も様々な啓発活動を行っています。

次お願いします。リサイクルボックスは3割程度、ひどいところでは半分程度異物が入っています。そういうのを何とか防ごうという啓発活動として、左のところでリサイクルボックス、いままで上から入れる形を下から入れる形にしたり、真ん中のシール、渋谷区さんに取り組んでいますがこのステッカーを貼ったり、右側のような新しいステッカー、外国人の旅行客の方にもわかるようなものを用意したりして、ポイ入れの防止の啓発活動を展開しています。

今後もTOKYOクリーンアップアクションということで、推進協議会の皆様とぜひ連携しながらしっかりと我々も取組を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

【宗野資源循環推進部長】 森本様、ありがとうございました。最後に東急ホテルズ&リゾート常務執行役員西野様をお願いします。

【東急ホテルズ&リゾート株式会社 西野 様】 皆様こんにちは。東急ホテルズ&リゾート株式会社の西野でございます。本日は当社が推進するサステナビリティに関する取組についてご紹介をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、当社のご紹介でございます。東急ホテルズ&リゾート株式会社はホテル運営専門会社としてホテルチェーンブランド「東急ホテルズ」を運営しております。

東急ホテルチェーンは北海道から沖縄まで、全国に67施設を展開しています。一部ホテルにも提携ホテルがございます。

次お願いします。当社ではサステナブル方針として地球、まち、人にやさしいホテルという3つの目指す姿と、6つのサステナブル重要テーマを定め、ホテル運営を通じて持続可能な社会の実現を目指しています。

今回はその中で私たちのサステナビリティに関する取組の一つとして、グリーンコイン制度をご紹介いたしたいと思います。グリーンコイン制度はお客様にブラシやかみそりといったアメニティの使用量削減にご協力いただくことで、プラスチックごみ削減などの環境負荷の低減を図るとともに、その成果を公益財団法人オイスカを通じた森づくり活動の寄付へとつなげるものでございます。

グリーンコイン制度は2001年に開始し、現在44施設で実施をしています。集まった期間は公益財団法人オイスカを通じてCO2削減につながるアジア太平洋地域での「子供の森」計画や、東京都の水源地保全につながる、山梨丹波山村での森林保全活動など、2つの森づくり活動への寄付に活用してございます。丹波山村では、従業員及びその家族によるボランティア活動を年に1回行っており、今年は森林保全活動と畑づくりを行っています。私も参加していますが、直近の4月18日には森林保全活動で実際に山に入り、のこぎり等を使って低木の除去をいたしました。また使われなくなった農地を活用し、作物を育てるための畑づくりにも取り組んでおります。

私たちはグリーンコイン制度以外にも様々な取組を実施しています。このページで一部紹介していますが、全国ホテルで周辺地域を清掃する年2回の一斉美化運動や、自然界で分離されやすい素材を使用したアメニティの導入など、環境配慮の取組を継続して行っております。

私たちはこれからもホテル運営を通じ、地域社会や環境へのさらなる貢献を目指してまいります。ご清聴ありがとうございました。

【宗野資源循環推進部長】 西野様ありがとうございました。発表いただいた内容についての意見交換の時間をこの後設けているところですが、議事の関係で小池知事からご発言があれば発言をお願いしたいと存じます。小池知事いかがでしょうか。

【小池東京都知事】 ご発表ありがとうございました。各業界については様々な工夫を積み重ねていることに敬意を表したく思いますし、この推進協議会を通じながら、お互いに情報交換をして、ノウハウを共有していくことで、全体をクリーンにしていきたいと考えています。千代田区、奥多摩町、取組ありがとうございました。樋口区長は実際にごみの収集の現場で、今日もユニフォームで来ていただきありがとうございます。秋葉原も非常にインバウンドの方々がご来訪されることが多いと思いますが、「ごみのごみを呼ぶ」、破れ窓理論ではないですが、現場で感じておられるだけにいろいろ具体的に進めておられるということでした。ぜひ地域との調整でもっとも配慮していることを伺いたいと思います。

また、奥多摩町長いつもありがとうございます。クマの問題もそこに関わってくるのだと改めて認識を持ったところでございます。ドローンを使ったり、スマートごみ箱、

デジタルを活用したごみ対策など、事例をお聞かせいただいたところでございます。観光は大切な産業でございます。東京に来られる方は必ず「どうしてこんなにきれいなんですか」ということを言い、「教育です」とお伝えしているのですけども、やはりごみの量がある程度を超えてしまいますと、そこをどうマネージしていくかが今回最大のポイントになってくるわけでございます。奥多摩町長には多様な主体との協働が不可欠だと思いますので、そのあたりどうやっておられるかも伺っていきたいと思います。これはみんなで進めていくことがクリーンさを保つ最大の秘訣だと思います。そういう意味で情報交換の場として活用させていただければと思います。今日はありがとうございます。

【宗野資源循環推進部長】 それでは千代田区長から順にお願いします。

【樋口千代田区長】 地域との調整がいかののかということで伺いました。スマートごみ箱を設置するにあたっては、秋葉原中央通りの地域の地元町会、商店街の皆さんとお話しする中で一番不安なのが「ごみ箱があふれて、周りにごみが溜まらないか」ということでした。私自身もたびたび現地に足を運んでおり、こうした現状をふまえ、当面は回収を1日2回のタイミングを設けること、巡回監視によって溢れそうになったら引き取るという柔軟な運用をしていきたいと思います。スマートごみ箱ですから、収集データ詳細に取れますので、それを分析したうえで、次年度以降の収集回収を見極めていきたい、デジタルもAIも取り組んでいきたいと思っています。

【宗野資源循環推進部長】 それでは奥多摩町長お願いいたします。

【師岡奥多摩町長】 観光立町として長年奥多摩町はやらせていただいておりますが、今回の事業に対しましてもやはり官民共同、いろんな事業者と連携しなくては行政だけではできないということを痛切に感じておりまして、そのあたりをしっかりと進めてまいりたいと思います。マナーアップキャンペーンもその大きな一例でございまして、次世代につなげていく大事な思いであります。今回の実証実験で、町に欠かせない青梅線、アドベンチャーライン鳩ノ巣駅を基軸にしてごみ対策、そして観光事業対策を両立できるような形で進めております。沿線丸ごと株式会社さんと連携し、株式会社さとゆめさん、JR東日本さんが共同で鳩ノ巣駅を基軸にしてホテル経営をされている、観光ごみ対策をされているということでそこを起点にしてしっかりとやってまいりたいと思います。

今後JR東日本さんは交通事業者さんであると同時に、連携しながらやっていくという意味でいろいろご協力をお願いしてまいりたいと思います。それからごみ対策で私も役場、観光協会だけでなく警察署、消防署、各事業者に加えて、釣りやカヌーの愛好者が一緒にごみ対策に加わるという動きが出てきています。それからドローン協会の方の協力、まだまだマイナス要素の方が勝っていますが、これを上回るようなまさしくムーブメントを作っていくのが我々の責務だと考えています。

クマ対策の方も風評被害に負けるな、俺たちはそれ以上のことを観光事業として展開するんだ、という力強い言葉も聞いているので、非常に心強く思っています。

【宗野資源循環推進部長】 千代田区長、奥多摩町長ありがとうございます。ここで記念撮影に移りたいと存じます。会場奥にコーナーを設けています。ご出席の皆様にはお声掛けの順にご移動をお願いしたいと存じます。はじめに食品容器環境美化協会様、日本空港ビルデング様、日本旅館協会様、日本ホテル協会様、職員が誘導しますので、撮影

コーナーまで移動をお願いします。続けて、関東鉄道協会様、東日本旅客鉄道様、全国清涼飲料連合会様、東急ホテルズ&リゾーツ様、誘導いたしますので、移動の方をお願いいたします。撮影コーナーへご移動をお願いします。撮影時間は1分程度とさせていただきますので、協力のほどよろしくお願いいたします。

—記念撮影—

【宗野資源循環推進部長】 皆さんありがとうございました。ここで小池知事は都合によりまして、退席となります。小池知事、ありがとうございました。

—小池東京都知事退出—

【宗野資源循環推進部長】 皆様ご移動をありがとうございました。それでは残り時間短くなっていますが、会議全体を通した質疑応答、意見交換に進んでまいりたいと存じます。会場の皆様は挙手を、オンライン参加者の皆様は挙手機能を用いていただければと存じます。事務局からご指名しますので、ご所属とお名前をいただいてから発言をお願いしたいと存じます。ご発言の際はマイク下の付箋が貼ってある部分を押しをお願いいたします。それではご発言のある方、お願いします。

【公益社団法人食品容器環境美化協会 遠藤 様】 食品容器環境美化協会の専務理事を務めます遠藤と申します。せっかくの機会ですので、当協会についてご紹介させていただきます。当協会でございますが、行政と市民の共同であるアダプトプログラムの推進、小中学校の生徒さんに対する環境学習の支援、飲料容器を中心とした散乱防止啓発活動を行っている公益法人でございます。今回のTOKYOクリーンアップアクションとの連携でございますが、特にアダプトプログラムの推進の活動との連携をお願いしたいと考えております。アダプトプログラムですが、具体的には行政サイドであります市区町村と地元の自治会、企業と民間の方が協定を結びまして互いに役割分担を決めて町美化のための清掃ボランティア、環境美化活動などに取り組むものでありまして、長期的、継続的な環境美化活動を進める基盤となる仕組みであることが特徴となっております。今回東京都の資料でご紹介されていた台東区の取組のうち、自主的に活動を行う大江戸清掃隊と連携し、地域美化や清掃イベントの推進という活動がご紹介されていましたが、その取組はアダプトプログラムによる環境美化の取組ということでございます。

当協会といたしては今後KEEP TOKYO CLEANのキャッチフレーズのもとで、アダプトプログラム推進のPR活動を一層強化することを通じまして、その活性化を図っていきたいと考えますので、引き続きよろしくお願いいたします。以上です。

【宗野資源循環推進部長】 ありがとうございました。ほかにご意見などございましたらいかがでしょうか。

【東京都ホテル旅館生活衛生同業組合 工藤 様】 東京都ホテル旅館生活衛生同業組合の工藤と申します。私共は宿泊業の組合なのですが、ご存じの通り多くのインバウンドのお客様いらしていただいて大変ありがたいと思っています。ひとつ問題がありまして、スーツケースの問題があります。これは大型のごみでなかなか各施設が処分する場合に

も場合によっては5千円ぐらいの単価がかかってしまう、これは区の清掃局の考え方によって違うのですが、日本へ来てスーツケースを買っていただいて、古くなったものを置いていくということで日本経済には効果は出していると思うのですが、いかんせん大型のごみなものですから、我々も苦慮しておりまして、観光部のみなさまともどうしたらいいかという協議を重ねています。今日行政の方や千代田区、奥多摩町の方もいらっしゃいます。どういう取組をしたらスーツケースのポイ捨てを防げるか、何かいいアイデアがあればお聞かせいただきたいと思います。たぶん空港でも置いて行かれる方が多くて、成田空港でも1日何十、何百も置いていくという問題が出ると思うんですね。これはこれでお客さんを大勢迎える以上仕方がない部分はあると思いますが、何かいい知恵があれば教えていただきたいと思いますという思いで発言をさせていただきました。

【宗野資源循環推進部長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。日本空港ビルデング様お願いします。

【日本空港ビルデング株式会社 永田 様】 いまの工藤様の発言を受けまして、わたくし羽田空港の旅客ターミナルビルを運営している日本空港ビルでして、我々の空港、羽田空港は皆さんご利用されたこともあると思うのですが、世界一綺麗な空港ということで十数年評価いただいております。最近訪日外国人の方がいらっしゃることで、国際線の方がごみをいっぱい捨てられるということで、特にスーツケース問題は本当に一緒に頭を悩ませております。現在はそれを焼却なり、固形燃料として処分しているのですが、やはりスーツケースからスーツケースに還すみたいなのところも踏まえて、今日参加されている方と一緒に悩みを持っていますので、面として、東京都全体として同じ課題を解決していければなと思っています。ぜひ今後もさきほどの資料にも東京が衛生的で評価されているということもございましたので、未来にもつなげていけるように、日本の玄関口である羽田空港としてもしっかりと皆さんと取り組んでいけるようにしますので、ぜひ今後とも連携をお願いします。

【宗野資源循環推進部長】 ありがとうございます。日本ホテル協会様お願いします。

【一般社団法人日本ホテル協会 傳寶 様】 日本ホテル協会東京支部の傳寶と申します。今お話を伺いまして、ホテルにとってもスーツケース問題というのはございまして、共感をした次第でございます。ホテル業界としてもう一つ食材を大きく扱っておりまして、今回この事例でも9ページ目に宿泊業界で東急ホテル様、あわせて京王プラザホテル様もご紹介いただいております。ここについて紹介させていただきたく思います。私は東京支部の事務局を務めておりますが、京王プラザホテルに所属をしております。その中で京王プラザホテルとしては食材を大切に扱うことでこのクリーンアップの取組をしたいと考えておりまして、例えば規格外のバナナを活用したアイスなどですと、実際にはこちらドール社のプロジェクトに参画して、進めさせていただいておりますが、年間で7,200本の規格外のバナナを使用しております。

また、いま日本酒ブームということで、海外のお客様も日本酒を召し上がる方が多くなっていますが、ここから出る酒粕についてもうまく活用できないか、というところで酒粕を使ったあんぱんを開発しています。こちらの、もったいないをおいしいに変えるという取組に挑戦しており、好評な商品の一つになっています。こうした取組をすることで、当社は食品廃棄物の50%を資源化できていますので、今後も食材を通じて持続

可能な社会の発展に貢献していきたいと思っております。また、こういった場で皆様と情報交換させていただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

【宗野資源循環推進部長】 他にご意見よろしいでしょうか。奥多摩町長お願いします。

【師岡奥多摩町長】 千代田区長の「ごみがごみを呼ぶ」というのはまさしく我々も痛く感じているところでございます。観光地と駅のトイレはどうしても汚いというのが相場でありましたが、奥多摩町は数年前から駅のトイレ、ＪＲが５駅ありますがそこを中心に観光地のトイレをまずきれいにしようと。それでお客様にきれいに使ってもらおうという努力をしています。まだまだマイナス部分も、個室にごみを置いて行かれる方もいますが、それに負けずにホテルのいろんなノウハウを教えていただいて、我々も取り組んでいきたいと思えます。以上でございます。

【宗野資源循環推進部長】 ありがとうございます。残り時間は少なくなっていますのでせつかくですから何かあれば、いかがでしょうか。では環境局長お願いします。

【宮澤環境局長】 環境局長宮澤でございます。本日はありがとうございます。ＪＲ東日本さんと全清飲さんにお伺いしたいのですが、ＪＲ東日本さんの方で新しい圧縮ごみ箱、リサイクルステーションを導入されると従来とは違うやり方になって現場の作業される方ですとか、委託業者の方とか、いろいろご理解とか調整が大変かなと思うのですが、その辺をスムーズに進めるノウハウ、コツを教えていただきたいと思います。

【東日本旅客鉄道株式会社 白山 様】 ご質問ありがとうございます。先ほどご紹介しました５連のリサイクルステーションは分別しなくていいということもあるのですが、より細かく分別しなくてはいけないという課題も出てきています。そういう意味では手間もかかるといった負担があるのも事実でございます。ただごみの問題というのは作業環境を良くしていくということと、大きな命題に向けて意識高く取り組んでいくということの２つが成り立たないと実現しないかなと思っています。環境面としては企業として働くスタッフの状況を見ながら丁寧に説明をしつつ環境整備していくことをセットでやっていくことが必要だと思っております。また、ロボットのご紹介をしましたが、都内の駅はたくさんの方が常に行き交う状況にあり、ロボットのような新しいものを入れることはお客様の往来を阻害する可能性もあります。駅で働く社員の声を聴きながら、どのような環境であれば新しいツールを使いながら、より簡便で働きやすい作業環境が実現するのかということを聞きながら、お客様の安全と作業負担の軽減が実現するように、まさに丁寧に話し合っていくという方法しかないと思いますが、進めてまいりたいと思います。

【宮澤環境局長】 ありがとうございます。全清飲さんに伺いたいのですが、オレンジ色のリサイクルボックスをだいぶ拝見するようになりまして、肌感ではマナーが改善されてきているような風にも思いますが、実際導入することで従来型に比べてどのぐらいポイ入れが減っているかということもご教示いただきたいと思います。

【一般社団法人全国清涼飲料連合会 森本 様】 場所によりますがだいたい３割ぐらいの異物混入率であったものが減ってきています。ただ、場所によっては半分以上が異物であることもあります。下から入れるようになったので、以前よくあった、穴がふさがれるということが改善されているのは事実でして、場所によっては３割を切っているところもあります。ただこのメッセージは苦勞していまして、やはりわかりやすく、きれ

いに出していただきたいところはあるが、それよりもまずごみや危険物はいれないとかそういうストレートなメッセージを出させていただいたり、いろんな場所によって言葉を変えたりするとか、外国人の旅行者の方もわかる言葉のものを用意するとか、試行錯誤しながらやっているという形になります。そういったことを行いながら異物を減らしていくということに取り組んでいます。

【宮澤環境局長】 どうもありがとうございます。

【宗野資源循環推進部長】 皆様ありがとうございました。時間の関係もございますので、意見交換についてはこれまでとさせていただきます。本日は貴重なご意見を賜りまして本当にありがとうございました。今後東京都はパートナーの皆様と連携のもとT O K Y Oクリーンアップアクションの推進に向け、様々な取組を進めてまいります。本日も参加いただいたパートナーの皆様におかれましても、きれいな東京を一緒に作るという共通の目標に向けまして、各団体の特性に応じた多様なアクションをぜひ展開していただければ幸いです。

それでは以上を持ちまして本日のT O K Y Oクリーンアップ推進協議会を終了いたします。どうも本当にありがとうございました。

(閉会)